
鏡合わせのオレとオレ

RAB

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鏡合わせのオレとオレ

【Nコード】

N6341Z

【作者名】

RAB

【あらすじ】

進藤 ヒカルはタイトルを3つも手に入れるほどにまで上り詰めていた。

しかし、今だに佐為との別れは心の傷となり残っている……
そんなヒカルは24歳の5月5日に事故にあい……？

また、別の世界の進藤 ヒカルも事故にあった。

この二つの世界で同時に起きた事故は、世界にどのような変革をも

たらすのだろうか？

この作品は、他作品を書く間の気分転換で書く小説です。そのため、更新はスローペースになると思いますが、ご了承ください。

0 プロローグ（前書き）

死ネタはあまり書きたくなかったのですが、展開上そのような展開になりました……

不快に思われる方は、お引き取り下さい。

0 プロローグ

ザアザアザアと雨が降る。

まるで今のオレの心境を表している曇天から流れる、大粒の涙のようだ。

今日は5月5日。

それは、オレにとっては凄く重大な日だ。

そう、もう何年も昔から……

この日は、オレの大事な人がいなくなった日。

毎年この日になると、オレは凄く憂鬱になるんだ。

ああすれば良かった、こうすれば良かった。

そんなことばかりが、頭に浮かんできて……

一人でこの日を過ごす、鬱病にかかってしまいそうになる。

オレは、気分転換になるかな？

と思い、雨の中散歩に出かけた。

でも、頭の中はずっと、あいつのことだけ……

会いたい会いたい会いたい会いたい……

会って色々話したい！

ごめんって謝りたい！

ああ、でも本当は、分かってるんだ。

どれだけ渴望しても、あいつと会えないってことを……

でも、この日だけは……この日だけは……

あいつのことを考えさせてくれよ……

オレはふと、雨に打たれなくなつて、せつかく持ってきた傘をさすのを辞める。

まだ春で、少し冷たい雨がオレをずぶ濡れに濡らしていく。

上を見上げると、灰色の空が広がっていた。

ああ、早く晴れば良いのにな……

そしたら、オレの心も少しは明るくなれるかしんねえのに。

気分転換のための散歩だったが、何処を見ても、あいつと過ごした日々が思い出される……

懐かしい、懐かしいあの日々。

頬をつたう少し温かい雫は、雨なのだろうか？

それとも、オレの涙か？

オレは、雨の中なのだから意味のない行動だと分かっているながらも、その雫を右手で拭う。

その時にチラリと視界に入った、右手の磨り減った爪…………

それはまぎれもなく、碁打ちの爪だった。

そう、オレは頑張らないと…………

あいつの弟子として、あいつの碁を引き継ぐ者として…………

あいつが愛してやまない碁を。

あいつから教えてもらった碁を。

今ではその碁でしか、あいつとは会えないのだから…………

でも、本当は…………

「お前と直に会って、話したいんだよ、佐為……………」

キキキキッ——

ドオーンッ

衝撃が身体中に走り、視界が暗転する。

真っ暗な、真っ暗な世界へと意識が引きずられていく。

何もなく、凄く寂しい空間だ。

その空間に、少し居ると、何か音……いや、声が聞こえてきた。

「ヒカル！ヒカル！！目を覚ましてよ！！せつかくタイトルを3つも手に入れたんでしょ！こんな……こんなところで、死なないでよ！」

あかり………？

死ぬってオレが？

あー……さっきの衝撃は事故だったのか？

「進藤！！キミはこんなところで立ち止まるべきじゃない！！ボクと……ボクと神の一手を目指すのだろう！！！」

塔矢………

そうだよな。

神の一手を目指さねえと。

あいつに顔向けできねえじゃなえか。

…………でも、このままオレが死んだら？

そしたらあいつに会える？

あー…………だめだめ。

こんな形であつたら、あいつがわんわん泣き出しそう…………

『ヒカル…なんでこんなに早くこっちに来ちゃったんですかあー』

つてな。

「神様…………神様！どうか、どうか、息子を…………ヒカルを連れて行かないで下さい！！この子には、やらなくてはならない事が沢山あるんです！！」

母さん…………

そうだよな。

オレは、死ぬわけにはいかねえ！！

あいつから受け継いだ暮を、こんなところで辞めたりなんかしねえ！！

だが、そんなオレの決意とは裏腹に聞こえていた声が遠くなっ
てい
く…………

「『ヒカル（進藤）！！…ヒカル（進藤）！！…ヒカル（進藤）…
ヒカ…しん……………」

ごめん…………ごめん、皆…………

オレ、もうダメみたい……………

ピ—————

進藤 ヒカル 享年24歳

死因 飲酒運転による交通事故

~~~~~

雨の中、傘をさしている少年と少女がいた。

少年の方は雨だというのに、傘を片手に走って行くとする。

少女は、それを咎めているようだ。

「ヒーカールー！！こんな雨の中で走ってたら滑って転んじゃうよ！」

「へへーん！お前じゃあるめえし、そんなへマしねーよ！！！」

少年は少女の忠告を聞かず、それどころか少女のことを乏していた。

「なんですって！？……々もう、本当に知らないよ！滑って転んで、明日からサッカーができなくなっても！！！」

「お前に心配なんかされなくても大丈夫だっつーの！オレは、サッカー界のヒーローになる男なんだからな！！！」

少年は、手に持っていた傘をグルングルン回しながら少女に語る。

そんな使い方をしているので、雨に濡れてしまい、傘の意味がなくなっている……

「あつそーですか！そんなことは、まずレギュラーになってから言  
って下さい！！」

「へーんだ！オレは次期レギュラー決定なんだよ！！だから……  
って危ねえ！！！」

少年が少女の方を向くため、後ろを向いた瞬間、少年は少女に向か  
って叫んだ。

それと同時に、少年は少女を突き飛ばした。

「えっ……ヒカル！？」

ドガーーーーンッ

少女がその大きな音の音源の方を見ると、そこには、ガードレール  
に突っ込んでペシャンコになっているトラックと、頭から血を流し、  
倒れている少年の姿があった。

「ヒッ…ヒカル！？……いやあああーーーー！！！」

少女は少年に駆け寄り、泣き崩れる。

「おっおい、事故だ！！誰か、救急車を呼べ！！」

ピーポーピーポー………

少年は、病院へと搬送されていった。

2つの世界……

同じ魂を持つ者同士の、同じ日の事故……

これは、世界にどのような変革をもたらすのだろうか？



## 0 プロローグ（後書き）

ヒカルは好きなキャラなので死なせなくなかったのに、こんな作品を書く自分……

でも、逆行物は好きです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6341z/>

---

鏡合わせのオレとオレ

2011年12月21日06時48分発行